



公益財団法人 長崎平和推進協会
<https://www.peace-wing-n.or.jp/>

- 平成30年度 予算と事業計画
- アジア青年平和交流事業「自分たちが考える国際・平和交流プログラム」
- アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム
- 継承部会・平和案内人 交流会 ■ 市民対象碑めぐり
- 設立記念事業 一龍齋春水が語る「火垂るの墓」^{ほた} ■ 会員の広場
- TOPICS! (ICAN ベアトリス・フィン事務局長来館 ほか)

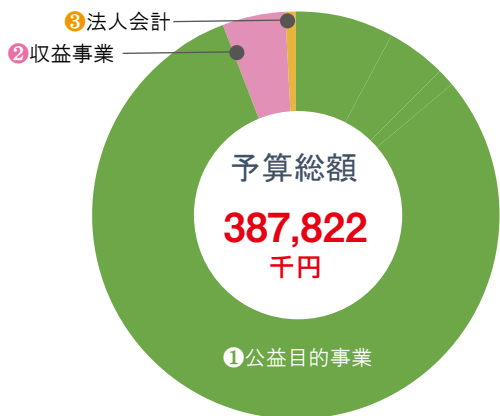


4ヶ国の交流の中で踊るマレーシアの若者たち（稲佐山ひかりのレストラン）

予算と事業計画

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指します。

長崎平和推進協会の予算総額 387,822 千円



- ① 公益目的事業 366,193 千円
 - 平和推進事業 33,068 千円
 - 受託事業 333,125 千円
 - ・ 原爆資料館原爆・平和総合案内業務 17,456 千円
 - ・ 原爆資料館図書資料収集整理業務 5,290 千円
 - ・ 追悼平和祈念館運営業務 310,379 千円
- ② 収益事業 19,177 千円
- ③ 法人会計 2,452 千円

※公益目的事業とは、多くの人の利益になるために進めていく事業をいいます。

単位：千円

	金額	前年度差
長崎市からの補助金	27,100	0
会費	4,627	47
受託事業収入	2,166	2,166
寄付金	765	165
その他	12	0
収益事業からの繰入金	850	△150
収入計	35,520	2,228

平和推進事業会計	33,068	2,258
1 発刊事業費	1,344	167
2 啓発事業費	1,299	74
3 調査研究費	100	0
4 育成事業費	7,548	1,833
人件費・事務費	22,777	184
法人会計	2,452	△30
支出計	35,520	2,228

◀ 1～4の事業の詳細内容は3ページをご覧ください

当協会の予算の大部分を占めているのは、**公益目的事業**です。公益目的事業は、当協会が独自に行っている平和推進事業、長崎市からの2つの受託事業（長崎原爆資料館原爆・平和総合案内業務、長崎原爆資料館図書資料収集整理業務）、国からの受託事業（国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営業務）の4事業で構成されています。

その他に、**収益事業**として原爆資料館内の売店を運営し、利益の50%を平和推進事業に繰り入れています。

また、**法人会計**とは協会全体の管理・運営を行う会計です。



会費や寄付金はどう使われるの？

皆さまからいただいた**会費**や**寄付金**は、平和推進事業と法人会計で使われます。左の表は2つの会計の収入と支出を示しています。

総務課 濱田



原爆資料館図書資料収集整理業務



Ⓜ 原爆資料館内の図書室で、原爆や平和に関する図書・資料の整理・選定、情報提供を行います。

原爆資料館原爆・平和総合案内業務



Ⓜ 原爆資料館展示室の観覧料徴収や総合案内業務を行います。

受託
している
業務

長崎平和推進協会は、長崎市や国から事業を受託しています。

Pick Up!

平和推進事業会計の事業計画

4 育成事業

● 部会活動

協会会員の自主的活動を図るための4部会の活動を支援します。

また、米国国立公文書館資料検証業務を長崎市から受託します。



● 平和案内人派遣事業

案内を希望される方に対し、長崎原爆資料館、追悼平和祈念館等の説明や被爆遺構の碑めぐりを行う平和案内人を派遣します。



● 平和事業への支援

協会の活動趣旨と一致する事業などを支援します。

● 秋月グラント

被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等を支援します。

● アジア青年平和交流事業

長崎の若者に平和に関する独自の企画を立案してもらい、その事業を支援します。



1 発刊事業

平和推進協会が行う事業など平和関連の情報を発信します。



- 会報「へいわ」…年4回発行
- 情報BOX…月1回発行
- 平和のあゆみ…年1回発行

2 啓発事業

● 平和学習の実施

被爆体験講話者や外国語ボランティアガイドの派遣、平和学習用のDVD・長崎原爆被災写真パネルの貸し出しを行います。



● 講演会等の開催

平和への認識を高めるための講演会を催します。

● 国連軍縮週間行事

国連軍縮週間に合わせて「市民のつどい」を開催し、戦時食や折り鶴、平和のメッセージを紙風船に書くコーナーなどを行います。



3 調査事業

平和・軍縮関係の会議やシンポジウム等に参加し、情報収集や関係機関との交流・意見交換を図ります。

追悼平和祈念館運営業務

収益事業



原爆資料館の売店で原爆や平和に関する書籍・グッズを販売しています。なお、利益の50%は平和推進事業の財源に充てています。



①平成15年に開館した「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」の管理・運営を国から受託して行います。平成30年度から被爆体験の家族・交流証言者等の派遣を始めます。

過去最多の5チーム！



アジア青年平和交流事業 2017

自分たちが考える 国際・平和交流プログラム

「自分たちが考える国際・平和交流」をテーマとして長崎の若者が企画・提案するプログラムに、今年度は過去最多の5チームが取り組みました。

3月11日に行った成果報告会では、平和を発信する斬新な手法が発表され、事業に取り組む若者の熱気を感じました。

習部
エクト

長崎外国語大学
国際交流プロジェクト

長崎純心大学
Green Pieces

」を多言語化



プロジェクト」は、故・松添の少女」の物語を土台とし、しさを修学旅行生や海外本などの多言語化を行ったコンテンツ「ナガサキ・力を入れています。

会と交流し、韓国語で原ーションを行いました。またドイツの学校と準備を「ナガサキ・アーカイブ」クや、英語でのディスカッションの意見を共有することで学

お互いの意見を尊重すりが核兵器問題についてを学びました。この素晴らしい活動に大いに活か(山口未侑)



日本の食文化、キャラ弁作りで国際交流



私たち長崎外国語大学では、日本人と外国人留学生との交流を深めるために12月16日に“お弁当大作戦!!!”というキャラ弁作りのイベントを開催しました。

日本では子供のためにお母さんが愛情を込めて作るお弁当のひとつですが、海外ではここまで手の込んだお弁当を作る文化はあまりありません。今回このイベントではミニオンズをキャラクターとして、写真のようなキャラ弁を作りました!今回は日本人、外国人含め約20人の参加でした。また外部からキャラ弁作りの講師をお呼びして、さっそく調理開始!初めは皆さんキャラクターを作るのに苦労していましたが、チームで協力し合い可愛らしいミニオンズを作っていました!食べる時には自分たちが作ったお弁当が可愛くて、食べるのがもったいない、今度は別のキャラクターで挑戦したいという声もあり、イベントは大成功に終わりました。(鶴林菜々美)



平和を考えるきっかけに…
平和に関する英語電子パンフレットを作成



私たちが製作した平和に関する英語電子パンフレット「What is Peace to you?」には、平和を考えるきっかけ、一歩となるようにという意味が込められています。対象が日本語圏ではない方ですから、英語で正確に内容を伝えるために、取材した方や英語の講師と確認を行いながら、何度も原稿を書き替えました。大学生の視点のみならず長崎の平和への想いを基礎に、実際に取材する項目の選択から、アポイント、取材、撮影も行いました。12月に初めて高校生と行った平和に関する熟議も重ねながら、今までにないパンフレットとなりました。取材過程では、何度も自分にとって平和とは何かを考える機会がありました。完成したパンフレットをより多くの読者の方に読んでいただきたいと思っています。(迎祐佳)



英語電子パンフレットは長崎純心大学のHPでもご覧いただけます



副理事長 船山忠弘

平成23年度から始まった「自分たちが考える国際・平和交流プログラム」は今年度5校の企画が採用されましたが、いずれも若者らしい柔軟で、独創的な内容でした。沖縄では地上戦のいたみが今も色濃く残り、韓国では8月15日を民族解放の日として祝福し、原爆被爆はあまり認識されていません。それだけに核兵器廃絶と平和の構築は被爆の実相の発信と同時に戦争の被害と加害の相互理解が大切です。今回の各イベントで小中高校への出前授業、講演、国内外への情報発信、国際交流などを通じて短期間に一定の具体的な成果が得られ、この事業の重要さを改めて痛感します。

★ 報告会の様子



平和教育の出前講座や講演を実施



私たちは1月～3月にかけて、県内中学校2校、高校1校、佐賀県の小学校2校、沖縄県の高校2校の計7校、508人に対して平和教育の出前講座や講演を行いました。

授業実践のための授業案作成や、実践校の子どもの実態に応じた授業の組み立て・実践に加え、自分たちの学びを深めるための被爆遺構巡りも、活動の中に取り入れました。

これらの活動を通して、一人ひとりが自身の知識不足とともに「発信者」「伝達者」になることの難しさを感じたり、平和へのアプローチについて考えたり、この活動への想いを新たにしたりと、貴重な経験をすることができました。来年度以降の授業の依頼をいただいたケースもあり、実りある活動になったと思います。私たちは今後もPeace Caravan隊として活動を続けていき、Facebookでも活動の様子を随時更新します。ぜひご覧いただき、今後とも温かく見守っていただけましたら幸いです。

(光岡華子)



あの日の出来事を未来に残していく
フリーペーパー「ながさき平和の音の風景」を作成



9月から始まったこの「Peace Piece プロジェクト」では、紙と音で伝えるフリーペーパーを作成し情報発信を行いました。この活動は、私たちにとって平和について改めて考える機会となりました。20年長崎に住んでいましたが、初めて知る活動もあり、平和といっても色々な考えや意味があると感じました。フリーペーパーを作成するにあたり、思うように取材や作業を進行することができず、たくさん悩むこともありましたが、多くの方々に協力していただき無事完成させることができました。

このフリーペーパーには、私たちの思いだけでなく、被爆者の方々をはじめ多くの人の思いが詰まっています。当時を知らない私たちが、あの日の出来事を未来に残していくことが平和を守ることにつながるのではないのでしょうか。私たちの思いがより多くの人々に届くことを願っています。(稲田菜那)

長崎市役所や当協会事務所等に置いてあるフリーペーパー内のQRコードを読み込むと被爆体験講話などを聞くことができます



原爆を海外の方へ伝える
絵本「ふりそでの少女」

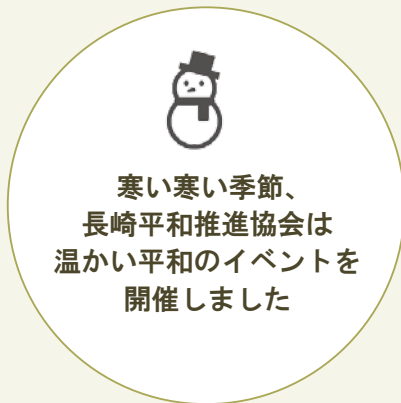


私たち「ふりそでプロジェクト」の代表者である博さんの絵本「ふりそでの少女」を通して、原爆の悲惨さや恐ろしさの方々に伝えるため、絵本を作っています。最近では、デジタルアーカイブの活用にも取り組んでいます。

今回は、韓国ハヌル教員養成院でのプレゼンテーション、多言語化の一環として英語版の制作も開始しました。その他にも、韓国でのフィールドワークや、多言語化の一環として英語版の制作も開始しました。

これらの活動を通して、原爆の歴史や、若者一人ひとりの意見をもちつ大切さを伝えること、そして、貴重な経験をこれからの私たちに伝えていきたいと思っています。





アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム



9回目になる今回は、マレーシア、韓国、中国から教官と学生を招へいし（中国山東女子学院が初参加）、計18人が来崎しました。まず、原爆資料館や爆心地公園などを見学して原爆の実相を学び、その後当協会継承部会員・原田美智子さんの被爆体験講話を聴講。当時の医療体制などに関して様々な質問が出ました。

また、活水高校平和学習部「ふりそでプロジェクト」の企画・運営により、首都大学東京・渡邊英徳准教授を講師に迎え、「ナガサキ・アーカイブ」を使用したワークショップや碑めぐりを行いました。各国混合のグループに分かれ、「平和な世界に向けて私たちができること」をテーマに行ったディスカッションでは、互いの認識を共有することができたようです。

今年が雪の日が続きましたが、プログラムは無事終了し、一行は帰国の途に就くことができました。

継承部会・平和案内人 交流会



継承部会員と平和案内人による交流会を行い、52人が参加しました。前年度に引き続き、継承部会の三瀬清一朗さんの司会進行により、継承部会長の池田道明さんのあいさつで会が始まると、参加者全員で、昨年逝去された継承部会員の西田清さん、谷口稜暉さん、吉田勲さんに黙とうを捧げました。

各テーブルでは、初めてお会いした方たちも和やかな雰囲気、食事をしながらの会話を楽しみました。途中、継承部会、平和案内人から活動報告やイベント告知、さらには、力強い自作の歌の披露もあり、盛り上がりを見せました。平和の輪を広げる活動をしている方同士の有意義な集いとなりました。



市民対象碑めぐり



被爆者が被爆遺跡を案内する「市民対象碑めぐり」を開催しました。例年、2回実施しますが、9月は台風接近により中止となったため、3月が初めての碑めぐりとなりました。

天候が心配されましたが、青空のもと、約80人が長崎駅に集合しました。継承部会員は、原爆投下から数日後に長崎駅前で見えた光景、御船蔵町の防空壕内での被爆状況やその後の生活、銭座小学校周辺での被爆体験など、絵や写真を交えながら、縁のある場所で説明を行いました。

参加者の一人からは、「最近になって家族の被爆体験を知った。母も亡くなり、誰からも話を聞くことが出来ない。今回は色々な方の被爆体験を聞いて、有意義な時間になった」との感想が述べられました。

追悼平和祈念館の追悼空間では、
2月と10月に虹を見ることができます！



2月12日

設立記念事業 一龍齋春水が語る「火垂るの墓」



原爆資料館ホールで、講師・一龍齋春水さんの講演会を開催し、雪が舞う寒さのなか、約200人の来場者がありました。話の冒頭には、人気声優「麻上洋子」としての活動から講師・一龍齋春水（講師として初めての人間国宝）に弟子入りするまでの経緯について、時折、アニメ（宇宙戦艦ヤマトのヒロイン「森雪」や銀河鉄道999の「ガラスのクレア」など）の声色を交えながら話されました。

講演で語られた「火垂るの墓」は、作家・野坂昭如の戦争体験を題材とした作品で、太平洋戦争末期の6月5日の神戸大空襲で母も家も失くした兄妹の哀しい物語です。特に、兄の清太から大好きなドロップをもらった妹の節子が、ドロップをほお張るシーン、このくだりになると会場



一龍齋春水さんが
メッセージを残されました



全体がすっかりと講演に引き込まれました。講演の合間に、時折鳴らされる張り扇の音が、静かな会場に大きく響き、場内からは、すすり泣く声も聞こえました。

最後に、一龍齋春水さんは「弱者を巻き込む戦争は、政治の中でも最も頭の悪い解決方法」、「戦争で死んでいった少女の無念さを語り継ぐことが私たちの責任」、「私は『火垂るの墓』を語り続けます」と講演を結びました。

講演後の質疑応答では、来場者から「長崎原爆の作品も、ぜひ講演でお願いしたい！」との声に、一龍齋春水さんは大きく頷かれました。

NO. 4



お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8
長崎平和推進協会「会員の広場」係

事務局 高比良



Peace Wing Nagasaki 会員の広場

事件解決に協会職員「武勇伝」

2月6日、長崎市野口彌太郎記念美術館の所有する名画が盗まれた事件ですが、犯人が早期逮捕されたことは、マスコミ報道のとおりです。この時、不審人物をいち早く発見し、尾行（途中から原爆資料館係長に交代）するとともに、同美術館で捜査していた警察官に走って通報したのは、当協会の総合案内の職員でした。通報を受け、警察官が駆け付けて緊急に逮捕し、貴重な絵画の盗難を防止することができました。盗まれた名画「カーニユの古城」（野口彌太郎作）が、時価250万円相当と聞き、本人も改めて驚いたそうです。

事件解決の陰に、協会職員「武勇伝」があります。もちろん、当該職員は、協会の会員でもあります。



ベアトリス・フィン事務局長 追悼平和祈念館に来館

2017年ノーベル平和賞を受賞したICANのベアトリス・フィン事務局長が、1月13日に長崎原爆資料館で市民セミナーを行った後、追悼空間で祈りを捧げ、「私達は、長崎原爆のすべての犠牲者を忘れず、すべての核兵器がなくなるまで進み続けます。長崎は、核戦争の恐ろしい経験をした最後の都市でなければなりません」とメッセージを残されました。



第8回体験記企画展

入場無料

「原爆と救護」 -新興善救護所より-

追悼平和祈念館では、原爆で多くの人が犠牲になった事実を伝えるため、体験記企画展を開催しています。今回は、原爆が投下された翌日から新興善救護所において、救護活動に従事した医師や看護婦らの原爆救護の実態と心境を、祈念館に寄せられた手記・音声・動画及び長崎市が発行した「原爆戦災誌」に掲載された資料を展示することで、救護する側から見た原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えます。



期間：1月30日～12月25日

場所：追悼平和祈念館地下2階遺影・手記閲覧室

世界の核弾頭数は3分の1に削減か 米口が目標達成を発表

核軍縮で米国とロシアが合意していた新戦略兵器削減条約(新START)の目標達成期限を迎えた2月5日、米国防務省とロシア外務省はそれぞれ声明を発表、配備戦略核弾頭を1,550に、核兵器運搬手段としての大陸間弾道ミサイル(ICBM)や潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)、戦略爆撃機の配備数を700に制限する目標を達成したと明らかにした。

発表によると、米国は配備戦略核弾頭を昨年9月1日時点で1,393まで、ロシアは今年2月5日時点で1,444まで減らした。核兵器運搬手段の配備数も米国は660まで、ロシアは527まで削減したという。

この発表が真実とすれば、米国とロシア両国の核弾頭数は4,000弱となり、両国以外のイギリス、フランス、中国、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮の核弾頭保有数を合わせて世界の核弾頭数は約5,100となる。これまで約15,000と言われていただけに、3分の1に減ったことになる。

しかしロシアは、米国が改造により運搬手段の配備数から外したとするSLBMや戦略爆撃機について、戦略核の再配備が不可能になったかどうか検証できないと批判、集計をめぐる対立が明らかになっている。今後、核拡散防止条約(NPT)の再検討会議や国際的平和研究所で厳密な検証が求められる。

(広報委員長 本田貞勝)

世界の核弾頭の数 (2017年6月1日現在)

ロシア	米国	フランス	中国	英国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
~7,000	~6,800	300	270	215	80	~140	110~120	<20	~14,900

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1106人
- ◎賛助会員 147人
- ◎学生会員 12人

(平成30年3月19日現在)

賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。
ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎故・田中レイご遺族 一〇万円 (敬称略)
- ◎井手 淑子 一万円
- ◎川上 正徳 一万円
- ◎社団法人釜山国際親善協会 一万円
- ◎匿名二人 一万五千元

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

平成30年度分の会費納入書を4月末にお送りしますので、最寄りの郵便局で納入ください。お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。

詳しくは当協会ホームページをご覧ください。事務局長までご連絡ください。

本紙は再生紙を使用しています。

平成30年3月31日発行
印刷 株式会社 藤木博英社



(公財)長崎平和推進協会

〒852-8117 長崎市平野町7-8

☎095-844-9922

☎095-844-9961